

## 心はいつもまっすぐに

秋田県大仙市立大曲中学校

三年 高橋 和 瑚

この夏、私の挑戦が始まった。私は、充実した中学校生活の中でただ一つ体に不安を抱えていた。私は背骨が曲がってしまう側彎症だ。今年の春に病院の先生に、ここで身長が止まり、骨の成長が止まればいいが、これ以上背骨の角度が進むと装具治療になる、と告げられた。この日から自分の背骨が今後どうなるか分からないという三カ月経過観察の願掛けの生活が始まった。本当は身長が百六十センチを超えるのが夢だったがこの日からこれ以上身長が伸びないと願う日々が変わった。

私は吹奏楽部に所属しており、この春からマーチングリーダーとトランペットリーダーを任されている。吹奏楽部は五月にマーチングの大会があり、そこで東北大会の切符を手にすることができた。その後は吹奏楽のコンクールに向けて毎日練習の日々が続き、あつという間に受診する日がやってきた。先生がレントゲン写真を指差しし、一言「進んでいるね」と。さらに「この角度だと装具治療、今後手術になる可能性があるのです、大病院に行ってください」と。レントゲンに写る私の背骨は、レントゲンの撮り方を失敗したのかと思うくらいS字に曲がっていた。いつもよく話す母もこの時は先生の言葉だけを聞き、二人で現実を受けとめるのに必死だった。帰

宅後、涙とともに沢山の想いが溢れてきた。私の人生は始まったばかり、自分の体が一番、装具治療をすればこれ以上進まないかも、今の姿勢をこの先も維持したい。でもこの想いより上回った気持ちがあつた。装具治療を始めれば、トランペットを吹けるのか、九月からのマーチングができるのか、部活の皆になんて話そう、と不安な気持ちが湧き起こってきた。でも、この頃は吹奏楽のコンクール練習が大詰めで、誰にも伝えず、気持ちを押し殺して練習に励んだ。県南コンクールの次の日に大病院に受診することが決まった。コンクール当日。トランペットを吹けるのが今日で最後かもしれないという想いの中、全身全霊をかけ、二曲吹き切った。結果は金賞、最優秀賞。皆で獲ったこの結果がとても嬉しかった。でも、この先の県大会で吹けなかったらどうしよう、という不安がすぐに襲ってきた。どうしようと考えている間に次の日がきて、初めて大病院を受診した。緊張と不安でいっぱいの中、診察室に入った。レントゲンを見た先生は「装具治療開始しましょう」と。予想はしていたが、いざ伝えられるとショックだった。その後、先生から「二十四時間装具をつけるほうがいいけれど、嫌でしょ。だから、家にいる間だけ装具をつけることにしよう。」と。私も両親もそんな提案があるのという顔をし、どん底に落ちていた気持ちが一気に上がったのを感じた。装具治療開始には変わりないが学校生活、部活動が今まで通りできることが何より嬉しかった。装具の型を取り、次の週に自分の装具が出来上がってきた。初めて装具をつけた瞬間から、辛い、痛い、息ができない、歩きにくい、もう無理、二十四時間じゃなくてよかったけれどこの苦しさでは勉強できない、食べられない、眠れない、とマイナスワードが次から次へと溢れてきた。辛すぎて涙が自然と出てきたが、頑張るしかない現実。帰宅後、寝

る前に装具をつけたが、全く眠れず、一日目は目標の時間前に外してしまった。こんな日が何年も続くのかと思うと心が折れそうだった。私はプラス思考の人間だ。それなのにマイナスな気持ちを発する自分が嫌になってきた。そこで少しでも前向きな気持ちにと、私は装具に名前をつけた。そうすると辛いけれどだんだん愛着が湧いてきたのだ。家族も毎日明るく、時に真面目に一言コメントをかけてくれ、家族皆で支えてくれることに感謝の気持ちでいっぱいになる。今、装具治療を開始して三週間が経つ。一カ月後にはここまで締められるようにという目標の線にたどり着くにはまだ程遠い。でもこの夏始まった私の装具治療という挑戦は、まだ始まったばかり。しっかりと自分の体と向き合って治療に臨んでいきたい。皆で部活動ができる喜びをかみ締めながら、これから始まるマーチングシーズン最高の演奏演技ができるよう、皆で目標に向かってこちらも挑戦を続けていく。

病院に通院する中で、様々な病気や怪我で多くの方が病と闘っている現実を知った。私は漠然と将来、医療の道に進みたいと思っていたが、この夏、自分が体験しているこの治療で学んでいるんな気持ちを忘れずに、将来患者様の立場に立って何か治療にお手伝いできる仕事に就きたいという夢を抱くようになった。背骨は体を支える重要な箇所。ここが曲がっていても私はこの先、どんなことがあっても心はいつもまっすぐにプラス思考で何事にも挑戦し続けた。この夏始まった挑戦が、私の人生を豊かにしてくれると信じて。